

「遠慮しないで、行けるところまで行く」

繁野玖美・作業療法士

「遠慮しないで、行けるところまで行く」という言葉に強く背中を押してもらった。

私は元来、臆病者で度胸がない。これまでの人生を振り返ると、大学卒業後のリハビリテーション職への進路変更、海外の大学院留学、そして、任意団体を立ち上げ高次脳機能障害のある人たちへの居場所の設立など、他人からは行動的な人に見えることがある。

しかし、実際は違う。できるだけ動きたくない、じっとしていたいタイプだ。好奇心にかられて、ついやってしまうだけだ。目の前に現実が降りかかると、心配で仕方なくなる。しかし、始めてしまったからには止めるわけにはいかなくなり、必死で努力する。

そんな私に「遠慮しないで、行けるところまで行く」という言葉は不思議な勇気を与えてくれた。

また、「不条理への怒りがエネルギー源だった。しかし、怒りだけでは続かない。」という言葉も印象的だった。

怒りに代わるものは、「市民、自治体、メディア、アカデミアなどとのパートナーシップ」、そして、「皆で問題を共有して目標をつくって実現していくことの楽しさ」であろうか。

そこで考えるのは、異なる人々の間での問題共有の困難さである。

同じ志を持っていても、一つの社会課題には多くの側面があり、何を・どの順番で・どのように解決していくかには様々な考え方がある。

「不条理への怒り」と「鳥の目」が必要である。そして、山本様もゆき様もおっしゃるように、想像力と度胸と対話とそれを続けるエネルギーが必要なのだと思う。

さて、私には、そんな力があるだろうか・・・